

ホンモロコ資源緊急回復対策事業

ホンモロコ天然卵からの親魚養成とその採卵

太田 豊三・三枝 仁・大澤 宏史・亀甲 武志

1. 目的

県は、著しく減少したホンモロコ資源の回復を目指して、平成18年度より種苗大量生産放流を主柱とする「ホンモロコ資源緊急回復対策事業」を実施している。

そのなかで大量に放流する発眼卵を得るため、親魚（天然第二世代：F1）の養成（滋賀県水産振興協会で実施）、さらにその親魚の親（天然第一世代：F0）の確保が必要となっている。

2. 方法

天然卵採集および親魚（F0）生産達成目標

（1）天然採集卵からの親魚（F0）生産

天然卵を採集し、0⁺魚10,000尾を生産・飼育し、春期には産卵可能な体型まで成長を確保。

（原則、産卵の時期・場所が偏らないように採集し、本湖の生息魚と同程度の年成長を目指す）

（2）親魚（F0）群からの採卵

過年度生産親魚（F0）から採卵し、発眼卵100万粒を振興協会に供給。（放流用種苗生産親魚：F1の養成）

（3）親魚（F0）群の養成

池別に収養している親魚群（1⁺、2⁺、3⁺以上）の良好な養成と養生に努める（特に冬季の斃死を防ぐ方策を検討）。

3. 結果

（1）親魚（F0）生産

1) 天然産着卵を採集し、場内においてふ化、餌付飼育し親魚候補として養成した。

以下順に、採集場所とその月日、ふ化月日（ふ化仔魚尾数）を示す。

①針江：採集 5月 6日→ふ化 5月11～17日（ふ化のピーク5月14日）（7,273尾）

②針江：採集 5月21日→ふ化 5月24～31日（19,823尾）

③小野：採集 5月21日→ふ化 5月24～31日（12,550尾）

④海老江：採集5月21日→ふ化 5月24～31日（1,620尾）

⑤ ②③④混合 →ふ化 5月31日（190尾）

2) 親魚候補（F0）0⁺魚の生産状況

上記1)のふ化仔魚計41,456尾を餌付・給餌→屋外池（40m²）収容時の10月18日現在で9,154尾、平均体重@=5.2g→翌年の3月31日現在で9,070尾（平均体重@=6g以上）。

（2）養成親魚（F0）からの採卵数と供給量

飼育水は湖水（この時期：11℃前後）に地下水（約17～19℃）を注入し、産卵誘起した。

①4月7～9日：220万粒（下図参照）

②6月2～5日：144万粒

表 親魚年齢別産卵内訳（単位：万粒）

親魚年齢	1+	2+	3+以上		
池番号	7A-5	7A-6	7A-7	7A-8	合計
4月7～9日	0	8	95	117	220
6月2～5日	0	19	94	31	144
池別合計	0	27	189	148	364

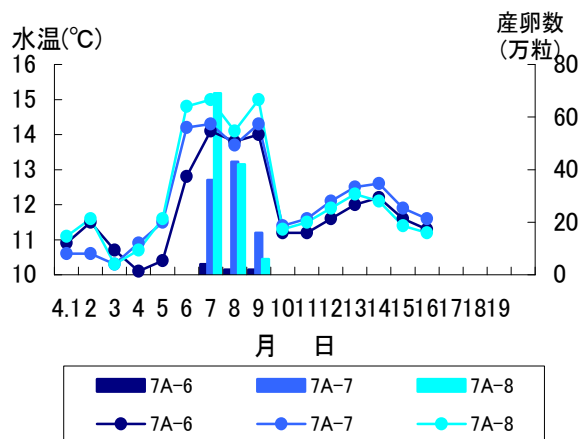


図 4月期の養成池別採卵数（棒グラフ）と水温（折線）

（3）天然由来親魚保有数（年度末推定）

0⁺年：9.1千尾、1⁺年：5.0千尾、2⁺年：8.7千尾、3⁺年以上：7.4千尾